

科目名	文学国語	学科・学年・学級	商業科・2 学年
		単位数	3 単位（週 3 時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 文学国語（大修館書店） [副教材] 新国語便覧（第一学習社）	

1 学習目標

- 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養います。
- 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばします。
- 読書に親しみ、自己を向上させ、言語文化に対する関心を深めます。

2 学習方法

- 前もって教科書を熟読し、連絡した予習課題をして、授業に臨んでください。また、実践力を養うために週末課題を出します。自学自習の習慣を付けましょう。
- 内容を的確に読み取る力を養うため、様々な文章を学習します。また、語彙力・漢字力を養うために小テストを実施します。
- 表現においては、日常生活の中で適切に表現できるよう練習していきます。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、語感を磨き、語彙を豊かにしているか。 ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたか。	・ 授業態度や予習状況 ・ 授業中の活動や発表 ・ 課題やノートの取り方 ・ 小テスト
思考・判断・表現	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えているか。 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫したか。	・ 定期考査・課題テスト ・ 課題やノートの取り方 ・ 作品の感想や感想文 ・ 授業中の発言や発表 ・ 小テスト
主体的に学習に取り組む態度	国語に対する関心を持ち、国語を尊重してその能力の向上を図っているか。 国語を進んで表現したり、理解したりするとともに、伝え合おうとしているか。	・ 授業態度や予習状況 ・ 授業中の活動や発表 ・ 課題の提出状況やノートの取り方

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査、課題テスト、小テスト等の成績、ノートや課題等の提出状況、作文や感想文等の内容、授業態度・出席状況、授業中の発表等を総合して行います。

学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 年度当初に教科担当の先生から指示された仕方で予習をして、授業に臨みましょう。
- ノートをきちんと取り、プリントはノートに貼りましょう。ノートを見直し、復習をしましょう。
- 週末課題の問題集を計画的に学習し、指示された日に提出しましょう。
- 板書はノートに取り、疑問点は遠慮せずにどんどん質問しましょう。
- 常に、辞書を机の上に置いて、わからない言葉が出てきたら調べるようにしましょう。
- 漢字テストや小テストの勉強を日頃からきちんと行い、知識や学力を身に付けましょう。
- 進んで読書し、読書記録を付けましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	「文学国語」の学習について	・ 学習の意義や内容・勉強方法について理解します。週末課題や漢字テスト等への効果的な取り組み方を学びます。
	第Ⅰ部	
	随想・評論（一）	・ 想像したり共感したりしながら、自分自身の生き方を見つめます。
5	小説（一） 〈一学期中間考査〉	・ 語り手の役割を意識し、登場人物の描写を的確に捉えます。
6	小説（二）	・ 登場人物の心情や境遇を理解します。
	小説（三） 〈一学期期末考査〉	・ 翻案作品と元の作品との比較を通して作者の意図に迫ります。 ・ 構成や表現の効果に着目しながら、寓意的な表現に込められた主題を読み取ります。
7	随想・評論（二）	・ 情景描写から自然と人間関係を捉えます。 ・ 登場人物との対比を通して、筆者の心の動きを捉えます。 ・ 比喩やオノマトペを使って表現します。
8	〈課題テスト〉	
9	小説（四）	・ 登場人物の心情を理解し、自己の生き方や他者との関わりを学びます。 ・ 本格的な小説を読み味わい、読解に必要な総合的な力を養います。
10	詩・短歌・俳句 韻文の世界 〈二学期中間考査〉	・ 詩の表現世界を通して、作者の心情を読み取ります。 ・ 韻文の表現や効果について理解を深めます。
11	第Ⅱ部	
	小説（一）	・ 時間の流れと人物の変化との関係を的確に捉えます。
	小説（二） 〈二学期期末考査〉	・ 寓話のおもしろさを知り、語り手の視点を意識して創作します。
12	随想・評論（二）	・ 日本文化についての感性豊かな言語表現を読み取ります。 ・ 日本の伝統的な価値観やその変化について考えます。
1	〈課題テスト〉	
	小説（四）	・ 明治という時代背景・舞台設定の意味を考えます。
2	〈学年末考査〉	・ 登場人物の境遇と心情を理解します。
3	小説（三）	・ 登場人物の視点を通して、作品世界を批判的に捉え、想像を広げます。 ・ 多彩な文章表現を味わい、言葉の感性を磨きます。

科目名	歴史総合	学科・学年・学級	商業 科 ・ 2 学年 ・
		単位数	2 単位（週 2 時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 明解 歴史総合 （帝国書院）	
		[副教材] 明解 歴史総合図説 シンフォニア （帝国書院）	

1. 学習目標

- 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を学びます。
- 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。
- 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養います。
- 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養います。

2. 学習方法

- 歴史総合の学習とは、細かな年代や人名を覚えることではありません。基本的な事項を押さえながらそれぞれの出来事にはどのような背景があるのか、他とどのような関わりを持っているのか、日本とのつながりを含めて、世界史の中でどのように位置付けられるのかなど常に意識しましょう。
- 歴史総合では、世界の様々な地域の地理的な理解が必要となります。必ず授業の前までに、学習する地域が世界の中でどのあたりに位置するかを予習して授業に臨みましょう。
- 歴史は過去の出来事にすぎないと思われるかもしれませんが、しかし、その内容は、他の教科や科目の学習内容と関連したり、現在世界で起こっているさまざまな出来事と密接に結びついています。授業だけに捕らわれることなく、新聞やテレビニュースを見たり聞いたりして、興味や関心を広げてみましょう。

3. 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評価の観点	評価の方法
知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・定期考査 ・授業プリント ・質問に対する発表やグループトークの内容 ・課題プリントの提出状況と内容
思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	・定期考査 ・授業プリント ・質問に対する発表やグループトークの内容 ・課題プリントの提出状況と内容
主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。	・学習活動への取り組み方や態度 ・授業プリント ・課題プリントの提出状況と内容

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査、小テスト、プリントや課題の提出状況、授業態度・出席状況、授業中の発表などを総合して行います。

学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 授業が最も大切です。予習をして授業に臨み、その日のうちに必ず復習をすることを心掛けましょう。
- 教科書や副教材などの写真や資料などでイメージを膨らませてみよう。また、地図で場所をしっかりと押さえておくことも重要です。有効に活用しましょう。
- 活発な発言や質問を通して積極的に歴史総合の授業に参加しましょう。「なぜ」「どうして」という疑問をふくらませ、歴史的視点から考える習慣を身に付けると、歴史総合の学習が楽しくなります。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	「歴史総合」の学習について	・「歴史総合」の学習について、その意義や学習内容の概要、評価の方法などについて説明します。
	1部 歴史の扉	
	1章 歴史と私たち	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸現象を基に、それらが日本や世界の歴史とつながっていることを学習します。
5	2章 歴史の特質と史料	・複数の資料の関係などに着目し、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを学習します。
	2部 近代化と私たち	
	1章 江戸時代の日本と結び付く世界	・アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易を基に、17～18世紀の経済と社会について学習します。
6	2章 欧米諸国における近代化	・18世紀以降の欧米の市民革命や国民統合の動き、また、産業革命と交通・通信手段の革新などを基に、工業化と世界市場の生成について学習します。
7	3章 近代化の進展と国民国家形成	・国民国家や政治変革の特徴や、帝国主義政策の背景、さらに帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響について学習します。
9	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	・欧米列強がアジア各地に進出していく中で、19世紀の東アジアがどのような変化を遂げてきたのかを学習します。
	5章 近代化が進む日本と東アジア	・日本における立憲体制と国民国家の形成や、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を学習します。
10	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	
	1章 第一次世界大戦と日本の対応	・第一次世界大戦の展開や性格、参戦、またソヴィエト連邦の成立について学びます。
11	2章 国際協調と大衆社会の広がり	・日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際連盟の成立、アメリカ合衆国の台頭などを基に、戦後の国際協調体制を学習します。
	3章 日本の行方と第二次世界大戦	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺と第二次世界大戦の推移について学習します。
12	4章 再出発する世界と日本	・第二次世界大戦後の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢について学習します。
	4部 グローバル化と私たち	
1	1章 冷戦で揺れる世界と日本	・冷戦が各国に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などについて学びます。
2	2章 多極化する世界	・冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などについて学びます。
3	3章 グローバル化のなかの世界と日本	・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響に着目し、冷戦後の国際政治の特徴と日本の役割などについて学習します。

科目名	数 学 I	学科・学年・学級	商業科 ・ 第2学年
		単位数	2単位（週2時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 改訂 新数学Ⅰ（東京書籍） [副教材] 改訂 ニューファースト 新数学Ⅰ（東京書籍）	

1 学習目標

- 三角比について理解を深めることを目標とします。
- 統計の基本的な考えを理解し、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにします。
- 数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすことを目標とします。
- 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにします。

2 学習方法

- 前時に習った内容が次の時間にも出てくるので、まず学校を休まないようにし、授業を大切にしましょう。
- 毎時間の授業では、受け身の姿勢でなく、積極的に意欲的に取り組みましょう。
- 数学の学習では、教科書を眺めていても理解は深まりません。まずは手を動かして書いて見ましょう。そして、模範解答をまねて、定理・公式・解法を覚えることによって理解が深まります。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知 識 ・ 技 能	三角比やデータ分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基本的な知識を身に付けているか。 三角比やデータ分析において、事象を数学的に考察して、解法を論理的に表現できたり、表やグラフを用いて表現し処理できたりしているか。 事象を表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できているか。	・ 定期考査(基礎・基本の定着)
思考・判断・表現	数学的活動を通して、三角比やデータ分析における数学的な見方や考え方を見いだそうとしているか。 見いだした数学的な見方や考え方をもとに事象をとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えているか。	・ 定期考査(問題解決の方向性) ・ 課題や授業ノートにおける記述内容
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動を通して、三角比やデータ分析における考え方に興味を持っているか。 意欲的に課題に取り組むとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを身近な事象の考察に活用しようとする態度を持っているか。	・ 授業中の態度や活動意欲、発表や発言の内容 ・ 授業ノートの処理状況 ・ 週末課題や長期休業中の課題の取組状況 ・ 確認テストや課題テスト

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査(中間考査, 期末考査)、課題テスト、小テスト、診断テスト等の成績、及び週末課題、課題プリント、授業ノート等の提出状況、さらに授業中の態度や発表内容等を総合して行います。学年末の成績は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 50 分間の授業を大切にし、授業開始のチャイムが鳴る前に教科書やノートなどを準備して授業に備えましょう。
- 授業が理解できたか確認するために、十分な復習をしましょう。先生から出された宿題は、その日のうちに終わらせ、公式などの必要事項を確認しましょう。
- ノートは板書事項を単に写すのではなく、自分が後で見直したときに分かり易いものにしましょう。そのためには、必要に応じて図やグラフを書き込んだり、ポイントをまとめたりしましょう。
- 提出物の期限は厳守しましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い	学 習 活 動
4	第3章 三角比 1節 鋭角の三角比 1 三角形 2 タンジェント	・直角三角形の辺の長さの比と角の関係として、鋭角の正接、正弦、余弦を定義し、その内容及び関連する用語、記号等の用法について理解します。	・正接、正弦、余弦の定義を理解し、それらを基に高さや距離を求める方法を学びます。
5	3 サインとコサイン 4 三角比の利用 5 三角比の相互関係	・三角比の間にどのような関係が成り立つか考察し、その関係を利用して三角比の値を求められるようにします。	・鋭角の場合について、三角比の相互関係の公式、余角の公式などの諸公式を導き、その用法について学習します。
6	2節 三角比の応用 1 三角形の面積	・三角比を利用して、三角形の面積を求める方法を理解します。	・三角形について、2辺の長さとその間の角の大きさから面積を求めることを学習します。
7	2 正弦定理 3 余弦定理	・三角形において、それぞれの辺の長さとの間に成り立つ基本的な関係（正弦定理と余弦定理）を理解します。	・正弦定理、余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさを求める方法を学習します。
8	4 三角比と座標	・鈍角、 0° 、直角、 180° の三角比の定義を与え、鋭角の三角比の定義を踏まえた上で理解します。	・点の座標を用いることで、三角比の定義が鈍角の範囲まで拡張可能なことを学習します。
9	5 三角比の相互関係	・鈍角まで含めた三角比の相互関係や、 $180^\circ - \theta$ の三角比と θ の三角比との関係について理解します。	・鈍角の場合の三角比の相互関係や公式を導き、その用法を学習します。また、鈍角の場合も三角形の面積公式、正弦定理、余弦定理を学習します。
10	6 鈍角の三角比と計量	・鈍角の場合も鋭角のときと同じように三角形の面積公式、正弦定理、余弦定理を用いて、さまざまな値を求めます。	
11	第4章 集合と論証 1節 集合と論証 1 集合 2 命題と集合 3 命題と証明	・ものの集まりについて、その表し方、用語、記号などを学びます。 ・ある事柄が、正しいか正しくないかを調べるための方法や用語を学びます。 ・命題が真であることを示す方法として、間接的に証明する方法を学びます。	・要素、部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの言葉と記号を学習します。 ・命題の真偽と集合の関係について学習します。 ・対偶を用いた証明や、背理法について学習します。
12	課題学習	・既習の学習内容を相互に関連付けた内容を発展させて、数学のよさを認識できるようにします。	・自分の関心や意欲を高める課題を見つけ、主体的に学習します。
1	第5章 データの分析 1節 データの分析	・データの整理の仕方、その特徴や傾向を表す方法を学びます。	・データから度数分布表やヒストグラムを作ります。
2	1 データと度数分布表 2 代表値	・データの特徴を1つの数値で表すことを学びます。	・平均値や中央値、最頻値を代表値として求めます。
3	3 散らばりぐあいを表す値 4 分散と標準偏差 5 相関関係 6 相関係数	・データの散らばり具合を数値で表すことを学びます。 ・2種類のデータの間に、どのような関係があるかについて学びます。	・箱ひげ図を作成したり、分散や標準偏差を求めてデータの散らばりぐあいを調べたりします。 ・散布図を作成し、相関係数を求めます。

科目名	生物基礎	学科・学年・学級	商業科・2学年
		単位数	2単位（週2時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 高等学校 生物基礎（啓林館） [副教材] 生物基礎 基本マスター（啓林館）	

1 学習目標

- 生物や生物現象に対する探求心を高め、目的意識を持って観察実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養います。
- 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念や、生命を尊重する精神を養います。

2 学習方法

- 授業で学習する様々な現象を、身近な事柄に結び付けて理解できるとさらに理解が進みます。
- ノートは、板書をそのまま写すだけでなく、自分なりに分かりやすく工夫して記入するなど、疑問に感じた点や追求したい事柄をメモしておくことで学習に広がりが生れます。
- 実験には関心・意欲を持って取り組み、実験の技能を身に付けましょう。
- 問題集を積極的に解いて学習内容の定着を図ると良いでしょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

観 点 \ 評 価	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	自然の事物・現象についての観察、実験などを通して、科学的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。学習内容と日常生活や社会との関わりを実感しているか。	・定期考査 ・実験レポート ・小テスト
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を行い、事実に基づいて科学的に判断できているか。	・定期考査 ・実験ノート ・授業の中で使用するプリント ・ノート
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度が身に付いているか。自らの学びに向かう力、人間性等を育もうとしているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・実験ノート ・授業の中で使用するプリント ・ノート

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、中間と期末の定期考査の成績、プリント、授業ノート、実験レポートなどの提出物、発表の仕方や内容、学習・実験活動への主体的な取り組み方等を総合して行います。学年末の評価は1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら多様性を見いだすことができるようにしましょう。
- 実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 学 習 活 動
4	第1章 生物の特徴 1節 生物の共通性と多様性	・ 生物が細胞で構成されていることを理解するとともに、それらの詳細な構造と細胞小器官の働きを学びます。 ・ 触媒の一般的性質と酵素の特殊性を理解します。酵素の特殊性は生命活動に合目的になっていることを理解します。 ・ 代謝とエネルギー代謝は表裏一体であることを学びます。また、ATPがエネルギー代謝の仲立ちをしていることを理解します。 ・ 遺伝子の本体がDNAであることを確認し、DNAは遺伝暗号の安全保存のため二重らせん構造をとっていること、また細胞内に圧縮された状態で存在していることを理解します。 ・ 生物の基本単位である細胞が体細胞分裂によって増えていく過程を染色体の動きを追いながら学びます。
5	2節 生物とエネルギー	
6	第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA	
7	2節 遺伝情報とタンパク質の合成	
9	第3章 神経系と内分泌系による調節 1節 情報の伝達 2節 体内環境の維持 第4章 免疫 1節 免疫の働き	・ 遺伝子にはタンパク質合成の暗号が含まれていることを理解するとともに、その発現の仕組みを学びます。 ・ 体内環境の特徴を理解し、その維持について具体的な例を挙げながら理解します。 ・ 恒常性を保つ仕組みに神経性と体液性があります。神経性とは自律神経系による器官の自動的な調節機能のことで、交感神経と副交感神経による拮抗的な調節を理解します。 ・ 体内に侵入した異物（抗原）を認識して、排除する仕組みを免疫といいます。免疫には生まれながらに備わっている自然免疫と、異物に特異的に働く適応免疫があることを学びます。
10		
11		
12		
1	第5章 植生と遷移 1節 植生と遷移	・ 生物群集がそれを取り巻く非生物的環境と生態系という一つのまとまりをつくっていることを理解するとともに、その中で生物どうし、または生物と非生物的環境の間で互いに影響し合っていることを学びます。 ・ 地球上にはさまざまな植生を基盤としたバイオームが見られることを理解します。 ・ 自然の生態系は安定した状態にあることを理解するとともに、人間の活動がこの安定した生態系を徐々に崩していることを具体例を挙げて学びます。
2	第6章 生態系とその保全 1節 生態系と生物の多様性	
3	2節 生態系のバランスと保全	

科目名	体育	学科・学年・学級	商業 科・ 2 学年
		単位数	3 単位（週 3 時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 現代高等保健体育（大修館）	
		[副教材] ステップアップ高校スポーツ（大修館）	

1 学習目標

- 運動の合理的な実践を通して、運動技術を高め、運動の楽しさを体験します。
- 身体の調子を整え、体力の向上を自主的・計画的・積極的に推進する資質を身に付けます。
- 公正・協力・責任・参画などの態度を養い、健康安全に留意し、生涯を通じて継続的に運動できる能力や態度を身に付けます。

2 学習方法

- 服装は学校指定の体操服を着用しましょう。
- 授業はチャイムと同時に始めるので、活動場所へ休み時間のうちに移動しましょう。
- 見学者は授業前に担当者に申し出て指示を受けましょう。
- 健康・安全に留意しましょう。
- 貴重品の管理をしっかりと行いましょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	社会の変化とスポーツ・運動技能の構造と運動の学び方・体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けているか。 運動ごとの特性、効果的な練習法、ルール及び審判法を理解し、知識を身に付けているか。 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付け技術や技能を高めているか。	・授業への参加の仕方や態度の観察 ・個人カード、グループ記録、レポート等の記載内容の読み取り ・スキルテストや記録会の結果の分析
思考・判断・表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけだしているか。 課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫しているか。	・授業への参加意欲の観察 ・個人カード、グループ記録等の記載内容の読み取り
主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとしているか。 公正、協力、責任、参画などの学びに向かう力や人間性が身に付いているか。 健康や安全に留意して運動しようとしているか。	・授業への参加の意欲の観察 ・種目別個人カード、グループ記録の記載内容からの読み取り

(2) 各学期及び学年末の評価

運動種目のスキル及び種目別個人カード、グループ記録、授業態度、出席状況等を評価します。

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。

学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 運動の楽しさを味わうために自ら進んで活動することが求められます。運動嫌いのイメージや苦手意識に固執することなく、新たな気持ちで積極的に授業に臨みましょう。
- 自分と仲間の持つ課題を見つけようとする意欲が大切です。自分自身のことにとどまらず、仲間の気持ちや身体の状態に目を向け、問題点や解決方法を見つける努力をしましょう。
- 体育についての学力とは、基礎的な知識・技能のもとに「意欲的にスポーツを実践する力」です。体力の向上を目指し、日常生活の中での運動の実践に心掛けましょう。

5 学習計画（予定）（授業はすべて男女共修で実施）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い・活動
4	1 「体育」の学習について	・「体育」の学習の意義や内容、評価の方法を理解します。
	2 体づくり運動	・運動を適切に行うための集団行動の意義や行い方を理解します。
		・体づくり運動を通して体力の向上を図り、集団での活動の仕方を理解します。
5		・手軽な運動や律動的な運動などを行い、体ほぐし運動のねらいや行い方を理解します。
		・各種体力を高める運動を行い、体力の向上を図ります。
		・運動に関連する体力など体力の幅広い捉え方を学びます。
		・普段の生活の中で計画的に運動を実践していく能力を身に付けます。
		・自己の能力に応じて目標を設定できるようにします。
6	3 選択授業① ソフトボール、卓球 バレーボール テニス	・ゲームや練習時に、チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高めたり、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、スポーツをすることの楽しさや喜びを味わいます。
7	4 体育理論 *年間を通じて実施	・運動・スポーツの文化的特徴について理解します。
8	1 選択授業①	・ゲームや練習時に、チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高めたり、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、スポーツをすることの楽しさや喜びを味わいます。
9	ソフトボール、卓球	
	バレーボール	
10	テニス	
	2 選択授業②	
11	サッカー、卓球	・自己の記録を向上させるための各種の技能を高め、記録の向上の喜びや競争の楽しさや喜びを味わいます。
12	バスケットボール	
	テニス	
1	1 陸上競技 (長距離走)	・自己の記録を向上させるための各種の技能を高め、記録の向上の喜びや競争の楽しさや喜びを味わいます。
2	2 選択授業②	・ゲームや練習時に、チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高めたり、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、スポーツをすることの楽しさや喜びを味わいます。
	サッカー、卓球	
3	バスケットボール テニス	

科目名	保健	学科・学年・学級	商業科・ 2 学年
		単位数	1 単位（週 1 時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 現代高等保健体育（大修館）	
		[副教材] 現代高等保健ノート（大修館）	

1 学習目標

- 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を養います。
- 健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けます。
- 心身の健康や安全に関する課題解決を目指し、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断できる力を身に付けます。

2 学習方法

- 授業チャイムと同時に始めますので、休み時間に教科書、学習ノートを準備しましょう。
- 要点を聞き漏らさず、予習時のチェック箇所には細心の注意をしましょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評価の観点	評価の方法
知識・技能	適切な生活行動を選択し、実践すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解しているか。 個人生活及び社会生活の健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身に付けているか。	・授業への参加の仕方や態度の観察 ・学習ノートや提出物の記述内容からの読み取り ・学期末テストの解答からの読み取り
思考・判断・表現	自分のこれまでの学習や体験、資料などを基にしたり、他の人の意見や考えを聞いたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断しているか。	・授業への参加意欲の観察 ・学習ノートや提出物の記述内容からの読み取り ・発表内容の聞き取り
主体的に学習に取り組む態度	健康の保持増進に必要な事柄について関心を持っているか。 仲間と協力して資料を集めたり、意見交換しているか。	・授業への参加意欲の観察 ・学習ノートや提出物の記述内容からの読み取り ・学期末テストの解答からの読み取り

(2) 各学期及び学年末の評価

学期末考查の成績、授業態度、出席状況等を評価します。

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。

学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 教科担当の「説明を聞いたり」「板書を書き留める」だけでなく、積極的に自分自身の生活を振り返り、健康の保持増進を図るための課題を見つけることが大切です。さらには、学習した内容を基に、自分や集団の課題を解決する方法を見つけ出すことも求められます。
- 新聞やニュースに気を配り、保健や健康に関する記事をスクラップするなどして日頃から関心を持つことが大切です。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い・活 動
4	保健の学習について	・保健学習の意義や内容、評価の方法を理解します。
5	1 ライフステージと健康	・ライフステージの健康課題について理解し、各ライフステージで受けられる社会支援について理解します。
6	2 思春期と健康	・思春期における体の発達や行動面・心理面の特徴を理解します。
7	3 性意識と性行動の選択	・妊娠・出産期を心身共に健康に過ごすために本人及び周囲の人々が留意する事項を理解します。
8	4 妊娠・出産と健康	・健康上からみた家族計画の意義、避妊法を選択する際の留意点、人工妊娠中絶の条件、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について理解します。
9	5 避妊法と人工妊娠中絶	・結婚生活を支える心身の健康と夫婦間のコミュニケーションについて理解します。
10	6 結婚生活と健康	
8	7 中高年期と健康	・加齢に伴う心身の変化について、形態、機能の両面から理解し、いかに健康に生きるか理解します。
9	8 働くことと健康	・働くことの意義と健康のかかわりについて学び、健康問題の変化について理解します。
10	9 労働災害と健康	・労働災害の種類とその原因について学び、防止するために必要なことを理解します。
11	10 健康的な職業生活	・職場がおこなう健康に関する取り組みについて学び、余暇を積極的にとることの意義について理解します。
12	11 大気汚染と健康	・わが国の大気汚染の現状と対策について理解します。
1	12 水質汚濁、土壌汚染と健康	・わが国の水質汚濁や土壌汚染の現状と対策について理解します。
2	13 環境と健康にかかわる対策	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法と産業廃棄物の処理について理解します。
3	14 ごみの処理と下水道の整備	・ごみの処理やその課題、上下水道のしくみについて理解します。
1	15 食品の安全性	・食品の安全性と健康とのかかわりや今日的課題について理解します。
2	16 食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性を確保するための役割や個人の役割について理解します。
3	17 保健サービスとその活用	・保健行政の役割や保健サービスについて理解します。
4	18 医療サービスとその活用	・医療保険のしくみや医療機関の役割について理解します。
5	19 医薬品の制度とその活用	・医薬品の正しい使用法と安全性を守る取り組みを理解します。
6	20 さまざまな保健活動や社会的対策	・国際機関・民間機関などの保健活動や行政機関による社会的対策について理解します。
7	21 健康に関する環境づくりと社会参加	・健康の保持増進のための環境づくりや主体的参加が必要であることを理解します。

科目名	音 楽 II	学科・学年・学級	商業科・2 学年（選択）
		単位数	1 単位（週 1 時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] MOU S A 2 (教育芸術社) [副教材] なし	

1 学習目標

- 音楽の諸活動を通して、音楽を愛好する心情を養うとともに、感性を高め、音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばします。
- 音楽や芸術文化への理解を深め、主体的な学習態度を身に付けるとともに、生涯音楽を愛好する心情を養います。

2 学習方法

音楽Ⅱでは、音楽Ⅰを土台として、自分にふさわしい表現方法を主体的に学習していきます。歌うことの楽しみはもちろん、器楽、さらにはジャンルに捕らわれない世界各地の音楽を鑑賞し、音楽の特徴や文化の違いなどを学んだ上で、自分に合った表現方法を身に付けていきましょう。また、アンサンブルの活動を通して、協力しながら音楽をする喜びや感動を味わえるように積極的に参加しましょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	・実技テストの内容 ・自己評価の内容
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・相互評価の内容 ・鑑賞の感想の内容
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・学習状況の観察 ・課題の提出状況 ・実技テストへの取組状況

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、実技テスト、授業態度、課題の提出状況を総合して行います。学年末の評価は、1・2・3 学期の評価を平均して行います。

4 学習のポイント

- 道具の準備や予習課題をして、授業に臨みましょう。
- 実技や実習においては、主体的な態度で積極的に学習しましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	音楽の仕組	・ 授業内容、学習方法について確認します。 ・ コードの仕組を理論と実践を通じて理解できるように学習します。 ・ コードの仕組を学びながら音楽の様々な仕組の理解を深めていきます。
5		・ 実践できるようにピアノの練習をします。 ・ ピアノでコードを演奏し、楽器を演奏することの喜びを知ります。 ・ 鑑賞では、ロマン派以降の作曲家の音楽に触れていき、鑑賞能力を養います。
6	<器楽テスト>	
	歌曲①	・ 曲種に応じた発声方法を身に付けます。
7	<独唱テスト>	・ 曲に応じた発声について学び、発声できるように工夫します。 ・ 自分の声の特徴を知り、表現の工夫をします。
9	器楽アンサンブル	・ 楽器の特性を生かしたアンサンブルを工夫します。 ・ 3～6 人のグループを編成し、選曲します。 ・ 1 パート 1 人とし、パートを決めます。 ・ 練習を計画的に行い、主体的に仕上げていきます。
10		・ 計画的に練習します。 ・ 毎回練習記録を記入します。 ・ 他の班の良いところを積極的に評価します。
	<器楽アンサンブルテスト>	・ 互いの演奏を聴き合って相互評価します。
11	日本の音楽	・ 琴や三味線に親しみ、その良さを味わいます。 ・ 楽器の扱い方や各部の名称を学習します。 ・ 曲を練習します。
	<琴テスト>	・ 演奏を鑑賞します。
12	歌曲②	・ 歌劇を鑑賞します。 ・ ベル・カント唱法の特徴を理解します。
1		・ ベル・カント唱法を意識して歌います。 ・ ベル・カントの響きを味わい、理解を深めます。
2	<2 重唱テスト>	・ ベル・カント唱法により表現できるように工夫します。 ・ 二人で合わず練習をします。 ・ 二重唱のおもしろさを感じ取ります。
3	まとめ	・ 学習の成果を確認します。

科目名	美術Ⅱ	学科・学年・学級	商業科・2学年（選択）
		単位数	1単位（週1時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 高校生の美術2（日本文京出版） [副教材] なし	

1 学習目標

生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力の育成を目指し、美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深める学習を行います。

2 学習方法

美術Ⅱでは美術Ⅰの学習を基礎にして、表現領域の「絵画・彫刻」、「デザイン」、「映像メディア表現」の3つの分野、鑑賞領域の「美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞」「生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞」の2つの分野の計5分野を自己と関連付けながら学習します。美術Ⅱの表現や鑑賞の学習を通して、創造的な芸術に関する資質・能力を育成します。

3 評価の観点と方法

評価 観点	評価の観点	評価の方法
知識・技能	「造形的な見方・考え方」について理解を深め、意図に応じて活用し、創造的な表現及び鑑賞活動を行っている。	・成果物（作品やレポート） ・リフレクションレポート
思考・判断・表現	自ら主題を生成し、造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、社会の中での美術の働きなどを総合して発想や構想を練り、見方や感じ方を深めている。	・制作過程（アイデアスケッチや制作記録） ・リフレクションレポート
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わろうとする主体的な態度が表現及び鑑賞活動全体を通して継続し、成果物に反映されている。	・課題に取り組む姿勢 ・リフレクションレポート

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、3つの評価の観点を踏まえ、「成果物と制作過程」、「課題に取り組む姿勢」、「リフレクションレポート」などを総合して行います。学年末の評価は、1年間の評価を総合して行います。

4 学習のポイント

- ・道具の準備、課題の提出期限など授業の基本的なルールを守りましょう。
- ・表現や鑑賞の活動を通して、自己理解と他者理解を深めましょう。
- ・日常生活でも「造形的な見方・考え方」を意識し、授業の学びを生活全般に生かせるように心掛けましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	・表現とは何か	・美術Ⅱの学習の見通しを持ち、学びの意味や広がりについて考えます。
	・質感を捉えて描く	・形や色彩、質感などの効果について学びます。
5	・感覚の冒険	・言葉にできない感覚に色や形を与える表現について学びます。
6	・線と明暗で表す	・鉛筆を用いた表現について学びます。
7	・使う人のためのデザイン	・プロダクトデザインについて学びます。
8	・感覚に訴えるデザイン	・UI/UX デザインの基礎について学びます。
9	・石が持つ素材の可能性	・素材を生かした立体作品の材料や技法について学びます。
	・生物を空想して表す	・発想や構想を経て、立体作品として表現する学習を行います。
10		
11		
12	・複数の写真で表す	・写真を組み合わせた表現について学びます。
1	・アニメーションで伝える	・メッセージを伝える手段としてのアニメーションについて学びます。
	・プロジェクション・マッピング	・物体の表面に映像を投影する表現について学びます。
2	・身近な材料で表す	・ものが持つ本来の機能や意味を取り除いた表現について学びます。
3	・学びを振り返ろう	・生活と美術のつながりに目を向け、1年間の学びを振り返ります。

科目名	書道Ⅱ	学科・学年・学級	商業科・2 学年（選択）
		単位数	1 単位（週 1 時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 書Ⅱ(光村) [副教材] なし	

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指します。

2 学習方法

書道Ⅱでは書道Ⅰの学習を基礎にして、「漢字の学習」「漢字仮名交じりの学習」「篆刻の学習」「仮名の学習」及び「鑑賞」について自己と関連付けながら学習し、幅広い活動を通して、創造的な芸術に関する基礎的な資質・能力を育成します。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めているか。 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表現できているか。	・成果物（作品やレポート） ・実技テスト ・リフレクションシート
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができているか。	・制作過程（草稿や制作記録） ・リフレクションシート
主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしているか。	・課題に取り組む姿勢 ・リフレクションシート

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は3つの評価の観点を踏まえ、「成果物と制作過程」「課題への取り組み姿勢」「リフレクションシート」などを総合して行います。学年末の評価は1年間の評価を総合して行います。

4 学習のポイント

- ・道具の準備や課題の提出期限など授業の基本的なルールを守り、能動的な態度で授業に臨みましょう。
- ・表現や鑑賞の活動を通して、自己理解と他者理解を深めましょう。
- ・日常生活においても「書に関する見方・考え方」を意識し、授業の学びを生活全般に生かされるように心掛けましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	オリエンテーション	・ 書道Ⅱの学習の見通しを持ち、学びの意味や広がりについて考えます。
5	漢字の書（篆書）	・ 篆書の学習を通して漢字成立の過程と古代中国の精神性について学びます。
6		・ 篆書の用筆法について学びます。
		・ 篆書から隸書への変遷の過程について学びます。
7	漢字の書（隸書）	・ 隸書の用筆法と特徴について学びます。
8		・ 倣書作品の制作を通して、古典を分析的に鑑賞し、表現する方法について学びます。
		・ 隸書の安定性と機能性や美しさについて学びます。
9	漢字の書（草書）	・ 草書の成立過程について学びます。
		・ 草書の用筆法と筆順の特徴について学びます。
		・ 草書の機能性や美しさについて学びます。
10	条幅作品の制作	・ 条幅（半切）への臨書作品制作を通して、気脈の貫通や墨継ぎなどの全体構成について学びます。
		・ 一つの古典を丁寧に学ぶことで、自ら学び成長する大切さを理解します。
		・ 作者の精神性が作品と密接にかかわっていることを学びます。
11	篆刻	・ 篆刻の美しさや特徴、刻法について学びます。
12	仮名	・ 平安時代の仮名古筆から、日本独特の表現と美意識について学びます。
1	漢字仮名交じりの書	・ 漢字仮名交じりの書の創作を通して、紙面への効果的な構成法や書としての呼吸の大切さについて学習します。
2		・ 作品鑑賞を通して、制作意図との関係を探ります。
		・ 素材となる文章を味わい、作者のイメージに自分のイメージを重ね、適切な表現方法を模索します。
3	まとめ	・ 生活と書道のかかわりに目を向け、1年間の学びを振り返ります。

科目 目 名	英語コミュニケーションⅡ	学科・学年・学級	商業科・2学年
		単位数	2単位（週2時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] VISTA English Communication Ⅱ(三省堂)	

1 学習目標

- 日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を培うことを目指します。
- 聞くこと、読むこと、話すこと（やりとり）、話すこと（発表）、書くことという五つの領域の言語活動を総合的にを行い、英語の実践的コミュニケーション能力の向上を図ります。

2 学習方法

- 英語を聞いたり読んだりして、情報や話し手・書き手の意向などを理解したり、概要や要点を捉える練習をします。
- リズムやイントネーションなど英語の音声的な特徴に注意しながら発音する練習をするとともに、まとまりのある文章を音読したり暗唱したりして英語の文章の流れに慣れていきます。
- コミュニケーション活動に必要な基本的な文型や文法事項などを理解し、実際に活用できるよう練習します。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解しているか。 外国語についての知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けているか。	・授業中の発表等の観察 ・定期考査、課題テスト ・授業時の小テスト
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりしているか。	・学習状況の観察 ・定期考査、課題テスト ・授業時の小テスト
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。	・学習状況の観察 ・ノートや課題の提出状況 ・各種テストへの取組状況

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査、課題テスト、小テスト等の成績、ノートや課題等の提出状況と内容、授業態度・出席状況等を総合して行います。学年末は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 予習、授業、復習の学習サイクルを確立し、地道に継続して行いましょう。「英語コミュニケーションⅠ」よりも難易度が上がりますが、授業、家庭学習（予習、復習、課題）をしっかりとこなしていけば大丈夫です。
- 「聞く、話す、読む、書く」の4領域のバランスをとって学習しましょう。
- 「英語コミュニケーションⅠ」と同様に、特に教科書の英文をしっかりとマスターしましょう。まずは英文を黙読して内容を理解した上で、意味を考えながら音読練習をしましょう。さらに文章を見ないで英語の音声を聞いて内容を理解できるようにし、音声を聞きながら同時読みできるようにしていきます。音読しながら何回も英文を筆写することも効果的です。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い・学 習 活 動
4	L.1 World Dance Performances	・ 世界各地の伝統舞踊について、その由来や込められた思いを知る。
5	〈中間考査〉	・ want ~ to do, how to do
6	L.2 A Piece of Cake	・ 英語と日本語の慣用句について学び、表現の違いを知る。
7	〈期末考査〉	・ 疑問詞や if で始まる節
8	Look and Learn 1	・ 文法のまとめ
9	〈課題テスト〉	(主語+動詞+目的語+to do~, how など+to do~, 名詞の働きをする節)
10	L3 Quokka	・ オーストラリア西部に生息するクオッカという動物について学び、その魅力と抱えている問題を知る。
11	Enjoy Communication 1	・ 使役動詞、知覚動詞
12	〈中間考査〉	・ 入国審査の窓口でよく使われる表現を学ぶ。
1	L.4 Designing Stamps	・ 切手デザイナーの仕事について学び、その魅力を知る。
2	〈期末考査〉	・ 形式主語 it、形式目的語 it
3	Look and Learn 2	・ 文法のまとめ（使役動詞、知覚動詞、it のいろいろな用法）
4	〈課題テスト〉	
5	L 5 Mont-Saint-Michel	・ 世界遺産モン・サン・ミッシェルについて、その歴史を学ぶ。
6	〈学年末考査〉	・ 現在完了進行形、過去完了形、過去完了進行形
7	1年間の復習	・ 1年間の総復習

科目 目 名	論理・表現Ⅰ	学科・学年・学級	商業科・2 学年
		単位数	2 単位（週 2 時間）
使用教科書・副教材等		〔教科書〕 VISTA Logic and Expression Ⅰ（三省堂）	

1 学習目標

- 日常生活の身近な話題について、英語で情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を培うことを目指します。
- コミュニケーション活動の基礎となる基本的な文法事項、構文の定着を図り、英語による実践的コミュニケーション能力の向上を図ります。

2 学習方法

- 情報や考えなどの受け手や送り手になるように、具体的な言語の使用場面を設定して、さまざまなコミュニケーション活動を行います。特に英語を聞いてその内容を理解するとともに、場面や目的に応じて適切に反応する練習をします。
- コミュニケーション活動に必要となる基本的な文型や文法事項などを理解し、実際に活用できるよう練習します。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けることができる。 日常生活の身近な話題について、比較的平易な英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを正確に理解することができる。	・定期考査 ・授業時の小テスト
思考・判断・表現	日常生活の身近な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現できている。	・授業中の活動等の観察 ・定期考査 ・授業時の小テスト
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。	・授業中の活動等の観察 ・ノートや課題の提出状況 ・各種テストへの取組状況

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査、小テスト等の成績、ノートや課題等の提出状況、授業中の活動、出席状況等を総合して行います。学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 全部完璧に聞き取れなくても、集中して要点を聞き取れるよう、粘り強く練習しましょう。
- 間違いを恐れず、また恥ずかしがらずに、積極的に話すよう心掛けましょう。
- コミュニケーション活動に必要な基本的な文型や文法事項などを理解し、実際に活用するようにしましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い・学 習 活 動
4	「英語表現Ⅰ」の学習について L 1 Boulderling? How Nice! L 2 Famous People	・ 共感を示す 現在形：be動詞／一般動詞 ・ 発表の仕方 過去形：be動詞／一般動詞
5	〈中間考査〉 L 3 Aquarium Adventure L 4 My Summer Plan	・ 許可を求める 現在進行形／過去進行形 ・ 誘う・提案する 未来表現：will / be going to～
6	L 5 UFO Sightings L 6 Homestay	・ 聴衆を引き付ける 現在完了形①：継続／経験 ・ メールのあいさつ 現在完了②：完了／現在完了進行形
7	〈期末考査〉 一学期の復習	
8	L 7 Which Is Faster?	・ 驚きを示す 比較：比較級／最上級／as ... as～
9	L 8 Great Inventions L 9 Save the Earth	・ 理由を述べる 助動詞①：can / may ・ 事実を伝える 助動詞② must / have to / should
10	〈中間考査〉 L 10 Masterpiece	・ 同意の表現 受動態
11	L 11 My Future Job L 12 World Heritage	・ 順序を述べる 不定詞①：名詞的用法／動名詞 ・ 出典・引用を示す 不定詞②：副詞的用法／形容詞的用法
12	〈期末考査〉 二学期の復習	
1	L 13 Pictogram L 14 Cool Japan	・ 図表を説明する 分詞：現在分詞/ 過去分詞 ・ 例を挙げる 関係代名詞
2	L 15 What's SDGs? 〈学年末考査〉	・ 意見を述べる 仮定法過去 / I wish
3	1年間の復習	・ 1年間の総復習を行う。

科目名	家庭総合	学科・学年・学級	商業科・2学年
		単位数	2単位（週2時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍） [副教材] 生活ハンドブック（第一学習社）	

1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1）人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに，それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

（2）家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。

（3）様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，生活文化を継承し，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 学習方法

- 講義、ワークシート、被服製作、視聴覚機器の利用、疑似体験、保育体験、グループ学習など、様々な学習形態を通して、家庭生活を営むために必要な知識や技術を実践的・体験的に学習します。
- 実験・実習を通して分かったこと、気づいたことを自分の言葉でまとめ、発表をしたり、他者の発表を聞いたりすることで、考えを深めていきます。
- ワークシートやプリントの保管・管理は重要です。きちんとまとめておきましょう。
- 日頃からマスコミ報道に触れて、家族や家庭を取り巻く社会情勢の変化に気づき、常に問題意識を持つようにしましょう。
- 授業で身に付けた知識や技術を日常生活の中で生かし、日々の生活の改善・充実に努めましょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評価の観点	評価の方法
知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに，それらに係る技能を身に付けている。	・ワークシート ・定期考査 ・学習状況の観察 ・実験・実習 ・ホームプロジェクト、作品
思考・判断・表現	生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・授業中の発言等の観察 ・ビデオ観賞などの感想 ・ワークシート ・ホームプロジェクト、作品 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活を創造し，実践しようとしている。	・学習状況の観察 ・ノートや課題の提出状況 ・ホームプロジェクト、作品 ・家庭クラブ活動への参加

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査、ノートや課題等の提出状況、作品、授業態度・出席状況等から、各単元の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を総括して行います。学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 家庭科の学習を通して、様々な文化に接し、視野を広めながらより柔軟な考え方を身に付け、自分に合った生活観、価値観を創造し、自分の個性を生かせるライフスタイルを作っていきます。
- 日頃から、社会の状況や自分の生活に関心を持ち、課題を見つけ、改善や充実のための方法を考える習慣を身に付けましょう。
- 授業で学んだこと、身に付けたことを生活の中で実践し、発展させていきましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	家庭総合の学び方 第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる	・「家庭総合」を学習する目的を理解します。 ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解します。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を想像できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結び付きについて理解します。
5	第3章 子どもと共に育つ	・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解します。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解します。
6	第4章 超高齢社会を共に生きる 〈期末考査〉	・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解します。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か考えます。
7	ホームプロジェクト	・自己の家庭生活や地域の家庭生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて、実践します。
8		・ホームプロジェクトの発表を行い、相互評価をします。
9	第7章 衣生活をつくる	・用途に合った着装を実践できる力を身に付けるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解します。また、被服表示を参考にし、目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身に付けるために被服の材料や性能、加工について科学的に理解します。 ・手持ちの衣服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解します。 ・環境に配慮した衣生活について考え、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直します。
10		
11	第8章 住生活をつくる 〈期末考査〉	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え、生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解します。 ・防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解します。
12	第9章 経済生活を営む	・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解します。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解します。
1		
	第5章 共に生き、共に支える 〈学年末考査〉	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて家族・家庭を支える福祉について理解します。
2	第10章 持続可能な生活を営む	・持続可能な社会を構築していくために、一人の主体者として何ができるか考えます。
3		

科目 目 名	課 題 研 究	学科・学年・学級	商業科・2 学年
		単位数	2 単 位 (週 2 時間)
使用教科書・副教材等			

1 学習目標

- 自ら課題の設定、学習計画の立案、研究をすることにより、計画力、実践力、問題解決能力を身に付けます。
- 自ら選んだテーマを研究することによって、自主的・継続的に学習する姿勢と態度を身に付けます。

2 学習方法

- 今まで学んできた商業科の科目、普通科の科目で身に付けた知識を課題研究に取り入れることにより、総合的に学習します。
- 課題研究を1年間学習する中で、忍耐強く物事に取り組む姿勢、問題を解決しようとする力、その結果としての満足感。これらを経験することにより、自信となるものを身に付け、社会生活を営む上での「生きる力」を養います。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	商業に関する専門的な知識を身に付け、商業の各分野と学習に関する様々な資料を適切に選択して活用し、商業の学習分野と進路の関りについて客観的に把握し、その過程及び結果を適切に表現していたか。	・実技テストの内容 ・課題の提出状況 ・レポートの内容 ・相互評価の内容 ・自己評価の内容
思考・判断・表現	商業を学ぶ目的と学び方及び学習分野について、様々な角度から主体的かつ客観的に考察するとともに、自らの学習分野や進路を適切に判断しようとしていたか。	・実技テストの内容 ・自己評価の内容
主体的に学習に取り組む態度	自ら学ぶ目標を定め、自ら学び、自ら考えるなどの主体的な学び方や生涯にわたり専門的能力を向上させる継続的な学び方について関心を持ち、自分から進んでまとめたり確認したりしていたか。	・学習状況の観察 ・課題の設定 ・学習計画の立案

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、実技テスト、レポート、授業態度、自己評価、相互評価、課題の提出状況を総合して行います。

学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均して行います。

4 学習のポイント

- 研究の過程での知識とか技術の習得という結果よりも、自ら進んで積極的に取り組んでいるという学習の過程が大切です。
- 他教科のように試験の結果や知識だけの習得ではなく、毎時間の授業への取り組みがしっかりできていれば、検定に合格ができ、高い評価にもつながります。
- 検定合格と、さらなる上位級の取得を目指して頑張ってください。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い	学 習 活 動
4	オリエンテーション	・興味・関心のあるテーマを設定し、自主的な計画を作成します。	・授業内容、学習方法について確認します。
5	テーマの決定 年間計画の作成 グループ活動	・毎時間、活動の記録をとり、以後の実習に活用できるようにします。 ・自分の設定したテーマを高めるための学習をします。	・テーマを設定します。 ・年間計画を作成します。 ・自己評価を行い、到達度を確認します。
6	研究方法の再確認	・理解できないところはグループ間で話し合い、調べることにより解決していきます。	・各授業の内容や興味・関心を持ったことを課題研究ノートに記入し、提出します。
7		・グループ別に話し合いをして意見交換し、お互いの意見を尊重して協調性や聞く姿勢を養います。	・相互評価を行います。
8		・さまざまなテーマに基づいてグループで話し合い、グループ内で相互に評価を行います。	・グループのテーマの達成度を確認します。 ・グループの目標を設定します。
9	1学期のまとめと反省 第1回中間報告会	・研究内容と反省を分かりやすくまとめます。 ・発表時の心構え、構成などについて理解します。	・研究の成果を確認します。 ・報告書を作成します。 ・研究の成果をグループ別に発表します。
10	テーマの見直し 新テーマの設定・実施 グループ活動	・これまで研究してきたテーマを生かせるようにグループ活動を進めていきます。	・所定のレポートを作成し、提出します。
11	研究方法の再確認	・各自の設定したテーマに基づいて、計画通りに実施しているか、各自で再確認します。	・各種検定に挑戦します。
12	2学期のまとめと反省 第2回中間報告会 グループ活動	・これまで研究してきた内容について話し合い、今後の計画を立てます。 ・これまで学習してきた内容を生かして検定上位級の取得を目指します。	・報告書を作成します。 ・研究の成果をグループ別に発表します。
	課題研究のまとめ 発表会	・研究内容と反省を分かりやすくまとめます。	・研究の成果をプレゼンテーションソフトを使って発表します。
1	1年間のまとめと反省	・発表時の心構え、構成などについて理解します。	・学習の成果を確認します。
2		・発表会のための準備・作業を入念に行います。	
3		・グループ別に、1年間の成果を発表します。	

科目名	マーケティング	学科・学年・学級	商業科・2 学年・商業類型
		単位数	2 単 位 （週 2 時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 新訂版 マーケティング（東京法令出版株式会社） [問題集] 商業経済検定模擬テストマーケティング1・2級 （東京法令出版株式会社）	

1 学習目標

- マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割を理解する。
- マーケティング活動を計画的、合理的に行う態度や実践力を身に付ける。

2 学習方法

- マーケティングの授業は、前時で学習した内容の上に積み重ねていく科目ですから、学校を休まないようにして、一時間一時間の授業を大切にしましょう。
- 毎時間の授業では、受け身の姿勢でなく、積極的かつ意欲的に取り組みましょう。
- マーケティングの学習は、潜在需要を顕在需要に変えるアプローチの方法を学びます。社会情勢に対し普段から興味・関心を持って行動するように心掛けましょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

観 点	評 価	評価の観点	評価の方法
知識・技能		マーケティングに関する基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、消費者行動の特徴、販売促進の重要性や基本的な仕組みについて理解しているか。	・ 定期考査 ・ 授業中のテスト ・ 課題テスト
思考・判断・表現		マーケティング活動について、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。	・ 定期考査 ・ 授業中に使用する問題集やプリント ・ 長期休業中の課題
主体的に学習に取り組む態度		マーケティングにおける調査手法や戦略方法に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組んでいるか。	・ 学習活動への参加の仕方や授業態度 ・ 課題の提出状況

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、課題や自己評価・グループ評価、授業中の態度やプレゼン発表等を総合的に判定して行います。

学年末の成績は、1・2・3 学期の評価を総合的に行います。

4 学習のポイント

- 毎時間の授業を大切にし、授業開始のチャイムが鳴る前に教科書などを準備して授業に備えましょう。
- 授業のペースはかなり速いと思います。したがって、忘れ物をしないことは勿論ですが、実習で時間内に終わらなかった場合は、放課後等を利用してその日のうちにきちんと片付けるようにしましょう。
- 専門用語も多く、聞きなれない言葉に戸惑うことがあるかもしれませんが、指導する先生の指示に従っていれば、大丈夫です。分からないところは積極的に質問するようにしましょう。
- 提出物・課題等の期限は厳守しましょう。

5 学習計画(予定)

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	・ オリエンテーション	・ 1年次に学んできたことを復習します。
5	・ 現代社会とマーケティング ・ マーケティングのプロセス	・ 現代市場の特徴とマーケティングの発展について学習します。 ・ マーケティングの基本的概念や企業の社会的責任について学習します。 ・ SWOT分析、相関関係、PPM等のマーケティング調査、分析方法を学習します。
6	・ 市場調査	・ 企業の戦略を事例研究を行い、企業の戦略について調査 ・ 研究を行い、プレゼンテーションを作成します。 ・ 生徒間でプレゼンテーションを行い、相互評価を行います。
7	・ 消費者の購買行動	・ マーケティングを行う上で、重要な消費者の購買行動を学習します。 ・ 消費者行動の特性や影響を与える要因を理解することで、市場において競合他社より有利に展開することを理解します。
8 9	・ 商品計画	・ 販売計画や仕入計画について、その方法を詳しく学習します。 ・ 適正な商品を、どこから、どれだけ、いつ、いくらで仕入れるかを立案・計画することを学習します。
10	・ 価格政策	・ 経営目標や環境により価格の設定方法が異なります。様々な価格設定方法を学習します。 ・ 製品ライフサイクルや市場などの状況に対応した価格設定があります。また、卸売業者や小売業者の様々な価格設定について学習します。
11	・ チャンネル	・ チャンネルの構造や仕組みを学習します。 ・ 販売価格やプロモーション活動について学習し、消費者の顧客満足度についての分析について学びます。
12	・ プロモーション	・ 消費者に商品の認知や情報の伝達を行うプロモーション活動について学習します。 ・ プロモーションを効果的に実行するためには、一定のプロセスを理解しなければいけません。特にターゲットの明確化やコミュニケーション目標の設定について学習します。
1		
2	・ 全商商業経済検定 (マーケティング)	・ 全商商業経済検定試験(マーケティング)の受験をします。
3	・ 一年間のまとめ	・ マーケティングの仕組みや分析方法について学んだことを利用して、企業分析を行い、グラフ化や図式化を行い一年間のまとめを行い、プレゼンテーションを作成します。

科目名	財務会計Ⅰ	学科・学年・学級	商業科・2 学年
		単位数	3 単位（週 6 時間　1 0 月から）
使用教科書・副教材等		[教科書] 新財務会計Ⅰ　新訂版（実教出版） [副教材] 新検定用　最新段階式　簿記問題集全商 1 級会計（実教出版）	

1 学習目標

- 企業会計の役割や制度及び財務諸表の作成に関する知識と技術を習得します。
- 財務諸表の意味や役割について理解し、財務諸表から得られる情報を活用する能力と態度を養います。

2 学習方法

- この科目では、企業会計に関する様々な制度を学習しますから、教科書をよく読み、また分からない箇所は質問し、専門的な用語等に慣れるという努力が大切です。
- 授業の中では複雑な会計処理や計算についての説明があります。授業に集中するとともに効果的なノートを作成し、計算方法の手順などをまとめておきましょう。
- 財務会計は学問であるとともに仕事の技術でもあります。数多くの問題を解き、技術の習熟に努めてください。
- 仕事を覚えるつもりで、礼儀作法も学んでください。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評価の観点	評価の方法
知識・技能	会計に関する基本的な考え方や処理方法を習得し、財務諸表の理論と得られる情報をもとに、企業の財政状態や経営成績を適切に表示するとともに、財務諸表から得られる情報についての判断を表現できるか。	・定期考査 ・授業中に使用する問題集 ・授業内小テスト・課題 ・発表
思考・判断・表現	企業会計の制度とその趣旨について自ら考え、会計処理の方法や手続き及び考え方について考察し、応用する能力を身に付けているか。	・定期考査 ・授業中に使用する問題集 ・授業内小テスト ・課題 ・発表
主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関心を持ち、その意義や制度の研究をするとともに、財務諸表から得られる情報を活用しようとする態度を身に付けているか。	・学習活動への参加の仕方や授業態度 ・課題の提出状況 ・ノート・問題集の記録

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査、長期休業中の課題、授業ノートや課題の提出状況、授業中の態度や発表内容等を総合して行います。

学年末の成績は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 1年次の「簿記」から発展して高度な内容を学びます。「簿記」の復習をした上で、1時間の授業を大切にしましょう。
- 教科書・ノート・問題集を中心に予習・復習をしましょう。
- 「財務会計Ⅰ」を学ぶことによって、取得できる資格や進路開拓等、可能性が大きく広がります。意欲的に学び、問題演習の徹底はもちろん質問などを積極的にしてください。
- 課題等の提出物の期限は厳守してください。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
10	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 第2章 企業会計法規と会計法規 第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価 第5章 流動資産 PART1 第6章 流動資産 PART2	・ 企業会計の意味・目的・歴史などの基本概念を理解します。 ・ 会計法規の種類と目的・会計基準の必要性和動向について理解します。 ・ 資産の意味と分類について、基本的な内容を理解します。 ・ 資産の評価について、その重要性和基準を理解します。 ・ 流動資産の意味と内容を理解します。 ・ 流動資産の会計処理方法と評価について理解します。
11	第7章 固定資産 PART1 第8章 固定資産 PART2 第9章 固定資産 PART3 第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債 第12章 固定負債 第13章 純資産の意味と分類 第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式	・ 固定資産の意義と種類を理解します。 ・ 固定資産の会計処理について、減価償却を中心に学習し、評価についても理解します。 ・ 負債の意味と分類について、基本的な内容を理解します。 ・ 負債の会計処理について、社債・引当金を中心に理解します。 ・ 純資産の意味と分類について基本的な内容を理解します。 ・ 株式会社の純資産の分類と内容について、理解します。 ・ 株式会社の純資産と利益処分・損失処理の会計処理について理解します。
12	第18章 貸借対照表の作成 第3編 損益計算書 第19章 損益計算のあらまし 第20章 損益計算書の意味と基準 第21章 売上高 第22章 売上原価、販売費及び一般管理費 第23章 営業外収益・営業外費用 第24章 特別利益・特別損失	・ 貸借対照表の作成方法を理解します。 ・ 貸借対照表の形式・科目の配列・区分と項目の分類・注記などについて理解します。 ・ 貸借対照表を正確、明瞭に作成する能力を養います。 ・ 損益計算の原理について理解します。 ・ 正しい損益計算を行うための諸基準を理解します。 ・ 営業収益について、その内容と会計処理を理解します。 ・ 営業費用について、その内容と会計処理を理解します。 ・ 営業外収益と営業外損失について、その内容と会計処理を理解します。 ・ 損益の区分について理解します。 ・ 特別損益について、その内容や会計処理を理解します。 ・ 法人税等の会計処理法及び表示法を理解します。 ・ 営業収支についてその内容を理解します。 ・ 商品の販売や長期請負工事の収益計上についての会計処理を理解します。
1	第25章 損益計算書の作成	・ 損益計算書の作成方法を理解します。 ・ 損益計算書の形式と区分及び注記について理解します。 ・ 損益計算書を正確、明瞭に作成する能力を養います。
2 3	第26章 その他の財務諸表 第4編 財務諸表の活用 第27章 財務諸表のディスクロージャー 第28章 財務諸表分析 第5編 連結財務諸表	・ 財務諸表の意味と役割を理解します。 ・ 企業を取り巻く利害関係者とその社会的な責任について理解します。 ・ 財務諸表分析の意義を理解します。 ・ 財務諸表分析の方法を理解します。 ・ 財務諸表を分析し、その情報を活用する能力を養います。 ・ 連結財務諸表の目的、連結の範囲及び連結財務諸表の表示方法について理解します。 ・ 連結財務諸表の作成手続きについて理解します。

科目名	原価計算	学科・学年・学級	商業科・2 学年
		単位数	3 単 位 （週 6 時間 9 月まで）
使用教科書・副教材等		[教科書] 原価計算 新訂版（東京法令） [副教材] 合格ガイド 1 級原価計算（東京法令）	

1 学習目標

- 製造業における原価計算及び簿記に関する基本的な知識と技術を習得し、原価について理解します。
- 原価計算から得られるさまざまな情報を活用する能力と態度を身に付けます。

2 学習方法

- 原価計算の授業は、前時で学習した内容の上に積み重ねていく科目ですから、学校を休まないようにして、一時間一時間の授業を大切にしましょう。
- 毎時間の授業では、受け身の姿勢でなく、積極的かつ意欲的に取り組みましょう。
- 原価計算の学習は、教科書を眺めていても理解は深まりません。まずは手を動かして書いてみましょう。書くことによって理解が深まります。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	原価計算に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理できるか。また、その成果を適切に表現できるか。	・ 定期考査 ・ 授業中に使用する問題集やプリント ・ 長期休業中の課題
思考・判断・表現	各種の原価計算について、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。	・ 定期考査 ・ 授業中に使用する問題集やプリント ・ 長期休業中の課題
主体的に学習に取り組む態度	製造業における原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組んでいるか。	・ 学習活動への参加の仕方や授業態度 ・ 課題の提出状況

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査(中間考査、期末考査)、課題テスト、小テスト、課題プリント、授業ノート等の提出状況、さらに授業中の態度や発表内容等を総合して行います。

学年末の成績は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 毎日の授業を大切にし、授業開始のチャイムが鳴る前に教科書や問題集などを準備して授業に備えましょう。
- 原価計算は、簿記検定 1 級の科目のため難解な問題も数多く出てきます。しかし、図式化することにより、理解が深まる場合が多いため積極的に図などを利用して理解しましょう。
- 専門用語も多く、聞きなれない言葉に戸惑うことがあるかもしれませんが、分からないところは積極的に質問するようにしてください。
- 毎日の積み重ねが大切です。予習・復習をしっかりとしましょう。
- 提出物等の期限は厳守しましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	第Ⅰ編 原価と原価計算 第1章 原価の概念と原価計算 第2章 製造業における簿記の特色としくみ	・原価の意味とその要素の分類及び原価計算の目的や意味、手続、期間、種類などについて理解します。 ・製造業における経営活動と原価計算との関係及び簿記の特色について理解します。 ・工業簿記の一連の記帳手続きを学習し、全体的な構造と帳簿組織を理解します。
5	第Ⅱ編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算と記帳 第2章 労務費の計算と記帳 第3章 経費の計算と記帳	・材料費の分類及び材料の仕入、保管払出、消費における計算と記帳方法を習得します。 ・予定価格を用いた材料消費高の計算方法について理解します。 ・労務費の分類及び賃金の支払、消費における計算と記帳方法を習得します。 ・経費の分類及び消費高の計算と記帳方法を習得します。
6	第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算 第1章 個別原価計算 第2章 原価の部門別計算	・原価計算表の作成、原価計算表と製造勘定の関係、製造間接費の配賦、仕損品、作業くずの処理方法を習得します。 ・製造間接費の予定配賦について理解します。 ・部門別計算の必要性及び原価部門の設定、部門個別費と部門共通費の区分について理解します。 ・部門費配分表及び部門費振替表の意味と作成方法を習得します。 ・製造部門費の予定配賦について理解します。
7	第3章 総合原価計算	・総合原価計算の特色を個別原価計算との違いから明らかにし、月末仕掛品原価の計算方法を習得します。 ・単純総合原価計算、等級別総合原価計算、組別総合原価計算、工程別総合原価計算について、それぞれの考え方と計算法及び記帳法を習得します。 ・副産物の基本的な処理方法について理解します。
8	第Ⅳ編 製品の完成・販売と決算 第1章 製品の完成と販売 第2章 本社・工場会計 第3章 製造業の決算	・製品の完成と販売に関する記帳方法を習得します。 ・工場会計が本社会計から独立している場合の本社と工場間の取引の記帳方法を習得します。 ・製造業における決算の手続について理解し、製造原価報告書の作成方法を習得します。また、商品売買業の財務諸表との違いを理解します。
9	第Ⅴ編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と手続き 第2章 原価差異の原因分析 第3章 損益計算書の作成 第Ⅵ編 原価情報の活用 第1章 利益計算と直接原価計算	・原価管理の基本的な意味及び標準原価計算の一連の手続について理解します。 ・標準原価計算の記帳方法については、パーシャルプランによる記帳方法を習得します。 ・原価差異の計算とその分析方法を理解します。 ・財務諸表の特色を学び、製造原価報告書の作成方法について理解します。 ・直接原価計算が利益計画に役立つことについて理解します。 ・計算例を通じて、売上高、原価、利益の関係を習得します。

科目名	ソフトウェア活用	学科・学年・学級	商業科・2 学年
		単位数	2 単位（週 2 時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] ソフトウェア活用（東京法令出版株式会社） [問題集] 全商情報処理検定試験模擬試験問題集 2 級 （ビジネス情報部門）（実教出版株式会社）	

1 学習目標

- 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けます。
- 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けます。
- 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けます。

2 学習方法

- ソフトウェア活用の基礎的な知識・技術について学習します。授業内容は、企業活動におけるソフトウェア活用に関する基礎的な知識・技能を学んだり、今後必要となる表計算・データベースについての活用方法についても学習します。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。	・ 定期考査 ・ 授業中に使用する問題集やプリント ・ 長期休業中の課題
思考・判断・表現	ソフトウェアの活用をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用して、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見しようとしている。また、ソフトウェアの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、ソフトウェアに関する技術などによってこれらの課題を解決するための最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。	・ 定期考査 ・ 授業中に使用する問題集やプリント ・ 長期休業中の課題
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と積極的に関わりながら、企業活動におけるソフトウェアの活用に責任をもって取り組む態度を身に付けている。	・ 授業態度 ・ 課題の提出状況 ・ 学習計画の立案

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は定期考査、課題、検定試験の結果、授業中の態度やプレゼン発表等を総合的に判定して行います。

学年末の評価は、1・2・3 学期の評価を総合的に行います。

4 学習のポイント

- 全商情報処理検定 2 級と全商情報処理検定 1 級（ビジネス情報部門）を受験します。それぞれが目標とする検定に合格できるよう一生懸命学習に取り組みましょう。
- 専門用語も多く、聞きなれない言葉に戸惑うことがあるかもしれませんが、指導する先生の指示に従っていれば、大丈夫です。分からないところは積極的に質問するようにしましょう。
- 提出物・課題等の期限は厳守しましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	序章「企業活動におけるソフトウェア活用」 第1章「表計算ソフトウェアの活用」 第1節「情報の集計」 第2節「情報の分析」	・本教科書の事例の舞台となる「レストラン egg」の概要を確認する。また、企業はどのような活動をしているのか及びその活動を支えるソフトウェアにはどのようなものがあるのかを確認します。 ・データを使用目的にあわせてグループごとに集計したり、項目ごとに集計したりするための方法について理解します。 ・データを集計した結果を加工して、傾向をつかむための分析や、効率よく商品管理をするための分析をする方法について理解します。
5	第3節「シミュレーション」 第4節「オペレーションズリサーチ」 第5節「手続きの自動化」	・モデルをつくり、条件を変えたり乱数を使用したりして、コンピュータで模擬的に試行（シミュレーション）して予測をするための方法について理解します。 ・集計、分析したデータを活用して経営に関する問題を発見し、解決策を見つける手法について理解します。 ・効率のよい処理をおこなうため、繰り返して実行する操作などを自動化するマクロを作成する方法について理解します。
6	第2章 データベースソフトウェアの活用 第1節「データベースの重要性」 第2節「リレーショナルデータベースの概要と設計」 第3節「データベースの作成と操作」 第4節「手続きの自動化」	・ビジネス活動において、情報の収集・整理や管理に利用されているデータベースの概要や重要性について理解します。 ・データベースのデータを守るためのしくみについて理解します。 ・データベースを設計するために、データの正規化とE-Rモデルについて理解します。 ・商品管理についてのデータベースを作成するために必要なデータベースソフトウェアの操作方法を理解します。また、学習内容を活用して報告書を作成します。 ・一連の処理をマクロ機能によって自動化する方法と、メニューを作成する方法について理解します。
7	第3章「情報システムの開発」	・表計算ソフトウェアのプログラミング機能を利用してシステム開発をするための方法について理解します。
8	第1節「表計算ソフトウェアによる情報	
9	システムの開発」	
10	第2節「データベースソフトウェアによる情報システムの開発」	・手続きの自動化とユーザフォームを活用した簡単なシステムの開発を、データベースソフトウェアの実習を通して理解します。
11	第4章「業務処理用ソフトウェアの活用」 第1節「グループウェアの活用」 第2節「給与計算ソフトウェアの活用」	・企業活動において、組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて理解します。 ・企業活動において、給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ソフトウェアについて理解します。
12	第3節「仕入・販売管理ソフトウェアの活用」	・仕入・販売・在庫管理などに利用される仕入・販売管理ソフトウェアについて理解します。
1	第5章「情報システムの基礎」 第1節「情報通信ネットワークの導入と運用」	・情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について理解します。
2	第2節「情報資産の保護」	・情報資産を保護する重要性や方法について理解します。
3		

科目名	デザイン実習	学科・学年・学級	商業科・2学年・情報デザイン類型
		単位数	4 単 位 (週4時間)
使用教科書・副教材等		[教科書] デザインの教室 (エムディエヌコーポレーション)	

1 学習目標

- 商業デザインに関する知識と技術を習得し、マーケティング活動に役立てる能力と態度を養います。
- 空間・立体の認識、把握及び作図・読図の能力、またデザインに関する計画と作成の能力を習得します。

2 学習方法

- 実技科目は「チャレンジ精神」が大切です。1年次に習ったことを基に、より高度な知識・技術の習得に積極的に取り組みましょう。
- 実技が「できない、うまくない」からといって諦めないで、積極的に質問をして、理解できないところ、分からないところを克服する努力をしましょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

評価 観点	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	2DCG、3DCGを編集するソフトウェアの種類と特徴について理解しているか。 造型の手法や色彩など、デザインするための基礎的な知識を理解しているか。 ソフトウェアを利用して、2次元・3次元の様々な形状を作成することができるか。 2次元・3次元の形状を組み合わせて、目的を持った作品を作成できるか。	・デザイン作品 ・検印表など
思考・判断・表現	デザインに関する基礎的な知識を基に、目的に応じた適切な表現で作品を作成できるか。 作品の制作にあたって、著作権に関する正しい配慮をすることができるか。 デザインの特徴を理解し、目的に応じた適切なソフトウェアを選択することができるか。	・実習活動記録 ・実習活動の自己評価 ・実習活動のグループ評価など
主体的に学習に取り組む態度	デザインに関して興味・関心を持ち、その特徴や表現手法を積極的に学ぼうとしているか。 ソフトウェアを活用したデザイン作品の作成に積極的に取り組んでいるか。	・実習活動記録 ・実習活動の自己評価 ・実習活動のグループ評価など

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、実習活動記録や自己評価・グループ評価、授業中の態度やデザイン作品等を総合的に判定して行います。

学年末の成績は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 毎時間の授業を大切にし、授業開始のチャイムが鳴る前に教科書などを準備して授業に備えましょう。
- 授業のペースはかなり速いと思います。したがって、忘れ物をしないことは勿論ですが、実習で時間内に終わらなかった場合は、放課後等を利用してその日のうちにきちんと片づけるようにしましょう。
- 専門用語も多く、聞きなれない言葉に戸惑うことがあるかもしれませんが、指導する先生の指示に従っていれば、大丈夫です。分からないところは積極的に質問するようにしましょう。
- 提出物・デザイン作品等の期限は厳守しましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	オリエンテーション	・ 学習上の心構えと授業内容を確認します。 ・ 1年次に学んできたことを復習します。
5	自由課題（作品製作） 人権ポスター作成	・ 資料を収集します。 ・ 下書きを下絵として、それをトレースしながら、直線・曲線の描き方を身に付けます。 ・ 基本的な着色の仕方を学びます。 ・ 活用するソフトウェア ○ I l l u s t r a t o r（イラストレーター） ○ P h o t o s h o p（フォトショップ）
6		・ A4判サイズのカラー作品として仕上げます。
7	課 題（作品製作）	
8	各団体ポスター作成	・ 作品応募を検索し、趣旨にあった内容を立案・計画し、作品制作を行います。 ・ 伝えたい内容を明確にするとともに、ビジュアルで効果的に表現します。
9		
10	自由課題（作品製作） デッサンの復習 色彩学習の復習 事業所からの依頼品作成	・ 学びを深めるために、デッサン・色彩等の基本的な知識を学習をします。 ・ インターネット等を利用し、情報を収集します。 ・ 下書きを下絵として、コンピュータでデッサンをします。 ・ さまざまな技法を用いて、自由な発想を生かし、ニーズに合った作品を完成させます。 ・ 基本的にはA4判サイズのカラー作品として仕上げます。 ・ 活用するソフトウェア ○ I l l u s t r a t o r（イラストレーター） ○ P h o t o s h o p（フォトショップ）
11		
12		
1		・ 地域の事業所からの依頼等を受けて作品を制作していきます。 ・ 個性あふれるのびのびとした作品を完成させます。
2	自由課題（作品製作）	・ 学習した内容を基礎に、創造性豊かな作品を作成します。
3	カレンダー作成 じゅうがちょう表紙作成	・ 自ら選択した課題について、資料収集から作品完成まで主体的に取り組みます。 ・ 作品作成の過程を記録し、時系列的に把握し、今後の作品制作に生かしていきます。